

Book Review

Q & A 若い歯科医師の疑問に答えます 1・2

武藤晋也 監修



Reviewer

本多正明 Masaaki Honda
(大阪府・本多歯科医院)

B5判、オールカラー、
各176頁
定価(各7,000円+税)
医歯薬出版刊



“若い歯科医師の疑問に答えます”と題した本書は、次世代を担っていく臨床医の大きな助けとなる、と言うよりは、臨床現場での実践的なテキストブックになるであろう。

Part I の初診時対応を除いて、Part I、II とも同じ CONTENTS になっている。Part I では、日常臨床の基本となるところをわかりやすく図説や臨床ケースを用いて解説がなされており、Part II では、臨床経験が積み重なるにつれて体験する難解なカベを乗り越えるための知識やヒントが書かれている。また、すべてのところで、Questions & Answers 形式になっており、臨床経験が十分ある臨床医でも、参考になるところが多くあり、日常臨床では常にチェアサイドに置いておきたい本である。

さらに CONTENTS の順序も、“麻酔処置”については応急処置が必要なときの知識や処置方法が、わかりやすく述べられている。

次に日常臨床で頻度の高い処置、“保存修復”と“歯内療法”がわかり

やすく解説されている。2つの治療方法は、Part I からIIへと確実に身に付けていけば、臨床力が上がっていくであろう。続く“歯周治療”では、歯科治療における炎症のコントロールを達成するうえで大きな役目を果たす歯周治療のインストゥルメンテーションから、歯周病と糖尿病との関係やサポートィブペリオドンタルセラピーとメンテナンスについても、わかりやすく述べられている。

“口腔外科”については実践面からの疑問に対し、また技術的なキーポイントと全身疾患との関わりについて、わかりやすく答えられている。

歯科治療の最終的な目的である良好な機能回復の支柱となる“補綴治療”については、修復・補綴材料の選択や印象方法の違いによって、その結果がどのようなものか、また欠損歯列に対するブリッジとパーシャルデンチャーの補綴方法についてPart I では、その基本的な疑問に臨床現場ですぐに役立つように考えられていて、Part II では、顎位についても咬合再構

成時の咬合高径の決定因子からわかりやすく疑問に答えられている。その他、補綴治療の基本的な技術である支台歯形成や印象法、そして近年脚光を浴びているジルコニアについても、簡潔に答えられている。さらに近年、著しく発展している“インプラント治療”についても、インプラント外科から上部構造の固定法を始め、インプラント補綴の疑問点である連結法や咬合、また歯周病患者に対する疑問にも、わかりやすく答えられている。

その他“小児歯科”“薬・病理・検査・診断”についても、明日からの臨床に役立つようにまとめられている。そして“訪問歯科”に対しても簡潔に述べられている。

最後に、これからの歯科医療を担っていく次世代の先生たちのために尽力された武藤晋也先生をはじめ、各パートをわかりやすくまとめられた先生方に敬意を表したい。本書は、次世代の先生たちにぜひ読んでもらいたく、また、チェアサイドに置いてもらいたい一冊である。